

保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 篠原敬一 編集者 高山英樹



えがお展
市民賞

「つめたーい」

東青葉保育園 西之原 陽子



「いらっしやいませ」



「これでよしっ!」



「みーつけた」



「ついておいで」



「そーつと」

【写真を提供していただいた保育園】
しあわせの星、野ばら、信明、しおばる、和光

vol. 120

平成30年度 3号

養成校との意見交流会 報告	2
養成校との意見交換会 対談「保育実習について」	3
保育士会 福岡市保育研究大会	
見どころ、聞きどころ、会員へメッセージ	4~5
未来のお出かけスポット紹介	6

新園紹介	7
秋の叙勲受章	7
リレー回想	8
編集後記	8



保育士養成校との意見交換会

平成30年10月9日

平成30年4月、福岡市では新規入所申込みの増加に伴い、新設園が18ヶ園設置され、数多くの小規模保育園も出来ました。又、既存園の増設により定員の枠が広がり、前年より2531人増え、37861人になりました。高島市長が就任した平成23年から8年間で13000人定員が増えまし

た。更に企業主導型保育園は福岡市内に70数ヶ所あります。当然ながら保育士の需給バランスが崩れ、究極の保育士不足になっています。保育士養成校の定員枠が広がらず、マスクミの影響等で保育学科の学生数が減少し、数少ない保育士資格取得者に求人が殺到しているのが現状です。福岡市都市圏では保育士の有効求人倍率は平成30年8月で2.37倍。4年前より1.28ポイント上昇しました。ハローワークや福岡市保育士

保育所支援センターを通じての採用は大変難しく、人材紹介会社からの斡旋で保育士を確保し、最低基準を守っているケースもあります。認可保育園として福岡市に協力して待機児童の解消の為、出来る限りの努力をしてみました。が、保育現場で実際働く保育士を確保しなければ新入園児を受け入れることは不可能です。これからも福岡市では定員枠が広がり、更に保育士不足になることが想定されます。そこで、今まで以上に保育士養成校との連携を密にし、つながりを深める必要があります。この

ような背景の中で平成28年度から再開した福岡市保育協会と保育士養成校との意見交換会について報告します。

今年度は10月9日(火)に西鉄グランドホテルにて会を開催しました。保育協会から理事長以下、理事と広報調査部員18名が参加し、福岡市指導監査課から小川係長、養成校から22校39名の就職担当の教職員の方々が参加されました。



1 挨拶
理事長 篠原敬一

この会は3回目になるが、重要な意見を頂く場としてとても重要である。保育協会会員が注目している会でもある。今年の4月は待機児童が40名だったが、未入所児童が1272人いた。福岡市は、次々に新設園ができており、来年度も16カ園できる予定である。新設園も保育者が多く必要になる。そういうことを含めて、保育協会としても養成校の先生方にお世話になっている。今日は、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい、よりより求人活動をしていきたいと思う。

2 福岡市による説明
指導監査課 研修第1係長

小川祐子

待機児童の解消を図るため、新築、改築の保育所等に整備を積極的に進めている。今年度2000人の整備を進めている。保育士の確保としては、平成25年度に福岡市に「保育士保育所支援センター」を開設して就職相談、斡旋を行っている。「就職支援研修会」を行っている。就職への不安を軽減するために「就職支援研修会」を行っている。その他にも「潜在保育士の方対象の貸付事業」就労支援を継続支援するための「弁護士相談及び社会労務士の無料の相談窓口」を開設している。また、昨年10月より家賃補助と安定した人材確保に向けて努めている。

〔指定保育士養成施設等 訪問調査について〕

福岡市保育協会と広報調査部の先生方と協力し、市内、太宰府の指定保育士養成施設等を訪問し



た。学生の就職支援を行うとともに、就職に関する調査や担当者との情報交換を行った。みなさんお忙しいなかお答えいただきまし

3 就職フェアについて

青年部 部長 高木楨晋

今年度で4年目を迎え、6月17日(日)と8月26日(日)に開催。数年前から保育士不足が全国的な問題となっている。福岡市も例外ではなく、年々保育士確保が困難になっていくなかで、「保育士になってもらいたい」「就職につなぎたい」という目的をもつて、青年部から具体的な企画を練ってスタートさせていただいた。7回実施してみても、学生を始め、就職を希望する方が多くの園と直接話せることが意義あるものになっている。

ただ、この趣旨が最近薄らいできており、露骨に自園の就職に直接結びつけようとする一部の園から学生に対し過度のアプローチをしているので、それはやめていた

だきたいとの声も出ている。その為、保育協会と連携をとり、保育士の魅力発信、保育園の就職希望者の全体的な底上げが趣旨であることを再確認し、より魅力的なフェアになるよう努力していき

たい。福岡の就職フェアは年に2回開催しているが、全国的にはめずらしい。目的としては、1回目は、見学や保育実習の参考にしていただきたい。2回目は就職する園の参考にしていただきたいと考えている。

新たな取組みとして、高校生のフェアへの参加も始めたので、来年度からは高校生の参加者増加も狙っていき

4 保育士養成校の先生方からのご意見

(1) 保育実習の在り方について
ディスカッションの内容の論点を整理して話された。

全国保育士養成校協議会に加盟している養成校として、実習生を送り出す上で「最低限これだけは



ちゃんと呼び導して送り出そうね」という実習ミニマムスタンダードがある。厚生労働省の設置基準があり、保育実習基準がある。これを踏まえ指導に当たっている。その中で養成校と実践の場である先生方と共通語が必要なのではないかと感じる。では共通語になりうるものは何か？

① 保育実習実施基準

これを踏まえて実習指導に当たっているが、保育所保育指針を中心にした共通語をもとに具現化をした実習の在り方について考える必要がある。共通語を共有することから始めてはどうか。

② 評価について

ミニマムスタンダードでモデルが示されているが、私学の独自性があり統一までに至っていない。九州ブロックでは、2019年8月22、23日鹿児島で九州ブロックセミナーが開催され、実習指導をいろいろな角度から検討する場を設けていきますので現場の先生に来ていただきたい。

③ 現場と養成校の連携さらなる協働

保育の質の維持、向上のために実習、就職、園内研修のキーワードをもとに保育士養成校と保育協会との連携と更なる協働が必要である。保育所保育指針の改定の背景にも位置づけられている。

(2) 1年目は観察実習として受け入れてほしい。2年目は部分実習などを入れていただきたい。これはご理解いただいていると感じている。厳しいという意見については、併設の幼稚園の実習が厳しいので、保育園実習については厳しいと学生は感じていない。評価

基準について全国から出ているミニマムスタンダードで標準化できたらよいと感じている。

(3) 単位の実質化ということいろいろな側面から評価をつけていくということを考えている。現在評価について偏りは感じていない。実習については、行く前から学生にその心得などの確認をしている。就職フェアについては主に1年生に現場とのつながりを持ってイメージをつけたいので2年生限定ではなく1年生もお願いしたい。

(4) 乳児発達コース64名のうち半数以上が6月就職フェアに参加しており、学びを深め期待している。九州各県より来ているが、最近の傾向としては、「福岡市に就職したい」「二人暮らしをしたい」という学生も年々増えている。幼稚園よりも保育士になりたいという学生が多い。実習についてトラブルは今のところない。保育技術については至らないのが当たり前なので、人としての立ち振る舞いや保育士としての向き合い方を現場でご指導いただきたい。



対談「保育実習について」

平成30年11月1日

広報調査部理事 長谷川 明美

井上 正志

長谷川

10月9日にありました保育士養成校と福岡市の認可保育園の意見交換会に出席しまして、私達認可保育園にとつて実習生を預かる事は、社会的責任があるのだと痛切に感じました。先生の園では実習生を受け入れるに当たり、職員の皆さんに受け入れの意義をどのように伝えていきますか？

井上

当園の職員には、実習指導を通じて自らの保育を見つめ直す機会となる事や、自身の成長の機会になることを伝えていきます。また次世代の保育士を育てることは保育界にとつて最優先の課題であり、現場の保育士が関わる事がとても大切であることを伝えていきます。

長谷川

確かに実習生からの新鮮な視点で保育をみられることで、自身の保育の良さや改善点に気が付くことがありますね。では先生の園で実習生を受け入れるにあたり、配慮していることを教えてください。

井上

一つ目は、実習生に園長、主任、リーダー保育士、担任、初任保育士がそれぞれの立場で関わり、よく話を聞いて適切なアドバイスをするように心がけています。実習初日に私から話していることは「10日間遅れず、休まず、やり遂げることが大切」です。社会人の資質として最も求められていることです。二つ目は、保育士

という仕事やりがいのあるものだと感じられるようにすることや、緊張と疲労の為に体調が悪くならない様に実習プログラムを組みます。たとえば、午後1時30分から午後2時30分まで保育室を離れて休憩を取っています。その時間を利用して大半の学生が実習ノートを書いていきます。三つ目は、養成校で学んだことを進んで披露してもらっています。短い時間で良いので子どもたちの前でピアノを弾いたり話をして、成功体験を積み、自信を持たせることが大事です。何よりも「先生」と呼ばれ子どもたちから慕われることが仕事として幼児教育に携わる動機になります。そして、全職員が自覚しておかなくてはならないことは、職員の言動や振る舞いは実習生に影響力があるという事です。

長谷川

本当に実習生は職員の動きや言葉かけを覗いていると思うことがあります。『これって〇〇先生の話し方を真似しているのでは？』と、つい苦笑することがあります。



す。保育士として高い専門性を持つためには、常に学ぶ姿勢が大切であることや、保育士自らが手本となり知らせなくてはなりませんね。それでは最後に一つ、実習生への指導はどのようにされているか具体的に教えてください。

井上

実習初日、2日目くらいは一日の生活の流れ、保育士の活動について主に見学や観察を通して理解させ、手あそび・絵本の読み聞かせ・部分保育等いくつか体験をさせたのち、設定保育を経験させています。

計画

計画し実施し評価し改善というPDCAサイクルを頭に入れ、評価は最終結果ではなく次段階の過程だと考え、指導し学生の成長を促すようにしています。毎日、実習に入ったクラスの担任と反省会を行い、次につながるアドバイスをしています。実習日誌の助言指導は、丁寧な文字で書き、誤字のないように、あやふやな時は辞書引き、赤字で訂正したり、無意味なアンダーラインを引いたりしないように心がけています。単位実習としての評価は主任、副主任が実習に入ったクラス担任から聞き取りを行い、最終的に園長と副主任が話し合い点数をつけます。

長谷川

実習後の助言やアドバイスは、保育場面での実習生の対応を分析しながら、具体的に説明する事や、保育士の方からこれだけとはという保育の真髄となるものはしっかりと伝えていけるといいですね。本日は実習生を受け入れるにあたり、参考になるお話しをいただきありがとうございました。

福岡市保育研究大会の 見どころ・聞きどころ

保育士会

12月2日(日)福岡市保育士会職員研修会への
沢山のご参加有難うございました!

保育士会会員約1400名が参加され、徳永玲子さんの素敵な読み聞かせや内田産婦人科の内田先生による命の講話に心を響かせ皆涙を流し引き込まれていました。そして、ソフトバンク

の選手をお招きしての楽しいトークショーに皆さんの笑顔の花が咲き、泣いたり笑ったり明日への力が湧いてくるそんなひとときでした。

今回は2月11日(月・祝)に福岡サンパレスにて開催します「第32回福岡市保育研究大会」の見どころ、聞きどころを紹介致します。



わらべうたを通しての実践研究 ～子どもの豊かな育ちと心の安定のために～

“遊びの中で子どもは育つ”と言われるように子どもにとって“遊び”は心身ともに成長していく中で重要な役割を果たします。

また新保育所保育指針にも書かれているように日常生活の中で我が国の伝統や文化に触れ、その豊かさを感じることは大切なことです。しかし現在の子どもの取り巻く環境は周りとのコミュニケーションがとりにくい状況におかれ、日本の文化や伝統の遊びに触れる機会も減っていると考えます。

そこで博多区では、日本人の生活や自然に密着した伝統文化として昔から親しまれているわらべうたに着目しました。本研修では様々なわらべうたの習得から始め、29年度の7月には博多区全園の保育士を対象に講習会を開催し各園の保育の中で子どもたちにわらべうた遊びを実践してもらいました。またその浸透度を図るため、保護者を対象にアンケートをとり、わらべ

うたを通した親子関係や子どもの変容を調べました。

今回の研修では研修員が全員楽しく参加し、わらべうたを通して和やかで笑顔いっぱいの癒しの時間にもなりました。この研修でのDVDを作成し、伝統的なわらべうた遊びが多くの園や子どもたちに浸透していってくれることを願います。



見どころ・
聞きどころ

100種類以上学んだわらべうたの中から研究大会バージョンとして、講師の先生と共に研修員皆で考えたわらべうたの発表をどうぞご覧ください。

保育士の専門性を高める学び合い ～子どもの主体的で対話的な深い学びを見つめて～

福岡市立保育所主任保育士会では、子ども理解を深めるために“みる”ことに視点を当て、福岡女学院大学 人間関係学部 子ども発達学科 教授 坂田和子先生にご指導いただきながら、「子どもの発達を踏まえた言葉かけ、子どもとの関わり」について研究を進めてきました。

子どもの発達(育ち)と学習(学び)を支えるためには、同僚性を高めることが不可欠であることから、職員間でワーク実践等を通して学び合いを深め、また、大人から目を向けら

うことで子どもが愛情を感じ、自信や自尊心につながる育ちを保護者とともに見つめていけるよう、「見える化」の工夫にも取り組んできました。

研究を通した同僚性の高まり、子どもの育ちを保護者と一緒に見つめていく過程を報告するとともに、自分らしく、自信を持って生き生きと主体的に遊ぶ子どもを目指して、さらに取り組みを進めていきたいと思えます。



見どころ・
聞きどころ

“みる&みる”とは何か? 「見える化」の工夫などの取り組みについて報告します。ぜひ皆さんも一緒に考えてみませんか?



親子の関係支援～気になる親子の姿～



今年度から保育所保育指針が改定され、各年齢における発達の特徴や道筋・養護と教育の一体的な展開が基本事項となりました。

研修会では、コミュニケーションのとりづらさや、関係がうまく作れない子ども達と向き合う中で親子関係を目を移してみると、通常の親子に見られるような親密な関わりが希薄であったり、逆に過剰な関わりであったり、お互いの関わりがうまくかみ合わない等、不自然さを感じる事例にたくさん出会いました。

各園の事例を検討し合うことで、親子の関係支援こそが子育て支援に通じると考え、私達の専門性としての観察する力、記録を取る力、考察する力を発揮し、親を力づけ、支えることをテーマに発表へ進めていきたいと考えています。



見どころ・聞きどころ どの園でも見られる親子の姿から、関わり方のヒントをお見せいたします。

造形活動を通して子どもを育てる



中央区グループ研修では子どもたちが「楽しさ、面白さ、喜び、達成感を味わえる造形活動」を行うには私達保育士はどのような保育をしたらよいか、カワイ絵画造形教室九州指導担当専門講師の板倉由美子先生を講師に迎え3年間研修に取り組んできました。

造形活動における子どもの発達の順序性と特徴について学び、表現する楽しさをいかにして子どもたちに伝えるかを考察すると共に活動計画案を各園で作成し実践しました。

またフィンガーペインティングを研修員が体験したり講師の

先生の「ローラーを使って遊ぼう」というテーマのもと研修員も子どもたちが一緒に造形活動に参加したことも良い経験となりました。

保育所保育指針の「表現」にある「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする」ような造形活動をこれからも各園で取り組んでいきたいと思ひます。



見どころ・聞きどころ 子どもたちの発達段階を知り、のびのびと表現できる造形活動を伝えたいと思ひます。

リズム、歌遊び・音楽表現を通して育む心と感性



保育現場において、毎日音楽に触れない日はない程、音楽活動を行っていると思ひます。しかし、「歌う」「音楽を聴く」「楽器遊び」「リズム遊び」など保育の中に音楽表現を取り入れることで、子どもたちの育ちにどのような影響があるのか、又、音楽を通じてどのように育ってほしいのか、あまり深く考えたことがないように思ひます。

そこで福岡子ども短期大学の木村鈴代先生を講師に迎え、童謡の歴史や子どもたちの音域について（特に子どもたちの声について）そして、リズムを感じ、その歌の情景を思い浮かべ

ながら歌うなど指導方法を学び、「言葉の意味を伝え歌う事」を踏まえて5つのグループに分かれてリズム遊びと手遊びを創作しました。



見どころ・聞きどころ 研修員が創作したリズム遊びと手遊びを紹介します。皆さんも是非一緒に！！



青年部

未来のお出かけスポット紹介



子ども向け職業体験テーマパーク 「キッサニア」九州初出店 (2022年、ららぽーと内)

現在福岡市では、市内三ヶ所にあった旧青果市場跡地の再開発が進んでいます。その一つ博多区那珂の青果市場跡地に三井不動産が開業することになりました。(西日本新聞7月20日付) 保育関係者として注目したいのは、その「ららぽーと」内に子ども向け職業体験テーマパーク「キッサニア」が九州初出店されることです。

キッサニアは、こども達があこがれの仕事にチャレンジし、楽しみながら社会のしくみを学ぶことができる「こどもが主役の街」です。約3分の2のこどもサイズに作られた街の中で、大人のようにいろいろな仕事をするこどもで、キッソ(専用通貨)がもらえます。キッソは施設内のいろいろなお店で、買い物をしたり、サービスを受けたりすることに使えます。

体験できる仕事やサービスは、なんと約100種類、実在の企業がスポンサーとなるパビリオンは約60あり、本格的な体験を演出しています。こども達は、リアルな職業・社会体験を通して、未来を生きぬく力を育むことができます。

現在、東京の豊洲と兵庫県西宮市の二ヶ所にあり、名古屋に2022年開業予定で、福岡で四ヶ所目となります。福岡での開業は、まだまだ先ですが、「キッサニア」では学校や保育園での利用のための施設紹介も行なっています。職員間での研修等に利用してみたいかがでしょうか。



写真は以前の研修で保育協会青年部がキッサニア東京に訪れた時のものです。ANAの搭乗カウンターそのままでのゲートを通ると、その先には子どもサイズの街が広がっています。

その中で子どもたちは、車の整備(オートバックス)、テレビの取材・放送(テレビ東京)、建築(大林組)、お菓子やジュースの製作(明治やコカコーラ社)、ガソリンスタンド(出光)等々、数えきれない種類の仕事を、それぞれの会社の方から教わり実践

していました。制服も設備もリアルなものを使っている、大人と同じ感覚で夢中になることができます。憧れの仕事を真剣に取り組む子、その報酬(キッソ)をもらって施設内で買い物をする子、どの子も目を輝かせながら、大人と同じ世界を楽しんでいた姿が印象的でした。



保育園および園児をさまざまなリスクからサポートします



保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

全私保連 保険制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害保険」「特別保育事業賠償責任保険」など、保育園経営に必要な不可欠な保険をラインナップしています。また、それらを総合的に補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

保育園児を24時間補償する共済制度です。保育者にとっては一般に比べて割安な掛金で補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先どうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社・三井住友海上火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

(引受保険会社)

(幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社

担当課：公務第二部 公務第一課 TEL：03-3515-4133

(共同引受保険会社) 三井住友海上火災保険株式会社

このご案内は全私保連保険制度・園児総合保障共済制度の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

NEW!! 新園紹介

しゅんよう保育園(中央区)

園長 原田 歌子

定員 80名

「しゅんよう保育園」は、地下鉄大塚公園駅から徒歩10分ほどの中央区港2丁目「かもめ広場」の前に、街中の港が見える保育園として開園いたしました。

定員80名。園舎は4階建てで、4階屋上が園庭ですが、近隣には西公園、荒津公園、黄子公園、福崎公園、大塚公園があり自然環境にも大変恵まれているので天気が良いれば毎日探索気分でお散歩に出かけています。

園の環境に限りはありますが、スタッフと共に協力しながら子どもたちが安心して生活できるように保育環境をデザインし続けるとともに、子どもたちが主体的かつ共同的に生きることができ新しい時代の乳幼児の保育について深く考えて参りたいと思っております。



博多ピンモ才保育園(博多区)

園長 松尾 正次郎

定員 80名

私たちの保育園は、福岡空港と博多駅の間地点に位置し、東比恵駅から徒歩7分の場所にあります。天気の良い日は飛行機を見えなくなるまで目で追いかけて、屋上園庭で元気に遊んでいます。保育の活動には、習熟度、選択制、異年齢での関わりを多く取り入れ、子どもの主体性を大切にしています。「楽しくない保育じゃない」を合言葉に子ども達と保育士そして、保護者や地域と共に子どもにとってより良い環境を整えています。



サンタリーベ保育園(南区)

園長 大島 ゆき子

定員 90名

南区に4月から開園したサンタリーベ保育園です。「サンタ」とは、子ども達が大好きなサンタクロースのお名前を頂いています。

「リーベ」とは、ドイツ語で「愛」という意味があり、子ども達が毎日ウキウキわくわくしながら夢のある子に育ち、愛情いっぱい包まれた保育園であるようにという願いを込めています。

笑顔で明るく丁寧に子ども達に接し、子ども達がどんな時もホッとできる空間ができるように、また保護者の皆様が安心してお仕事に出掛けられるように、そして大切な命をお預かりしていることを忘れないように心がけて保育をさせて頂いています。活動の一環として3歳児以上からは英語、スイミング、習字とカリキュラム活動も行っています。子どもたち自身がたくさんの体験をしながら、一人ひとりの意欲を伸ばし得意なことを見つけて、自尊心が育つような活動を行っていきたく思っています。



りんごの花保育園(西区)

園長 大瀬 智子

定員 60名

今年4月、西区福重に定員60名で開園しました。車通りが多い、にぎやかな場所にひっそりと園舎が建ったので、初めの頃は、「ここは何の会社ですか?」とよく尋ねられました。今では、狭い園庭や屋上園庭に子どもたちの元気な声が響いているので、通りがかりの方が、嬉しそうに子どもたちの姿を見てくれます。りんごの花保育園では、子どもの主体性を尊重し、自分で考え、行動することを支え、一人一人が自信をもって自分らしく過ごしてほしいと願っています。長年の夢がやっと叶った園なので、一日一日を大切に、子どもたちと一緒に輝いて過ごしていきたいと思っております。



秋の叙勲受章

おめでとうございます

祝 瑞宝双光章



高美台保育園 貞雄 園長
この度、叙勲の榮譽を賜り、大変光榮に思っています。保育園開園以来長い年月が過ぎていますが、この間沢山の方々のご支援

やご援助を頂きながら今があります。地域とともに歩み、そこには様々な出会いがあり、また触れ合いがありました。今まで育てて頂きました保護者や卒園児さらには地域の皆様方、また保育園の先生方には本当にありがとうございます。

今後とも、微力ながら子どもたちのために頑張りたいと思っております。



あけぼの保育園 功子 園長
この度、平成30年度秋の叙勲に際し瑞宝双光章を賜らざるも頂き身に余る光榮と感激致しております。これも保育協会の皆様

のご指導や、今日まで関わって来た職員や地域、保護者のご理解、ご支援の賜物と深く感謝致しております。

私は、昭和54年4月に3代目あけぼの保育園園長に就任し現在に至りましたが、時代の経過と共に様々な改革、保育指針の改訂等の変更は、其の度に、学び模索の日々で過ぎて来た思いがしています。

これからも健康に留意し、子どもたちの笑顔の為に児童福祉に微力を尽してまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

1111 回想

地域の園として 平尾保育園園長 森部 エミ子



地域になく
てはならない
園として69年
目を迎えた平
尾保育園で
す。

現在に至るまでに歴代の理事長先生、園長先生方が築いてこられた平尾保育園に縁あって努めるようになり12年目になります。

●平尾保育園の誕生

残された資料によると、戦後幼い子供を抱えた戦争未亡人が、働こうにも働けないという実情を見かねた当時の平尾校区の有志の方々が、校区内に是非、保育園を建てて母親が安心して働けるようにと、昭和23年頃から建設の取り組みが始まりました。

校区の婦人会の方々も、売店を設置し、日用品や食料品を売って資金の一部に充てたり、校区の有志の方々から寄付を仰いだりして基金を作りました。急遽、校区内に土地を探した結果、平尾小学校に隣接した土地を購入し、昭和25年11月1日、定員50名にて、財団法人 平尾児童福祉協会、平尾保育園が完成、発足いたしました。

●社会福祉法人浄水会、平尾保育園として

昭和54年には土地を福岡市に売却、その代金と助成金で園舎を建築（土地は市より無償貸与）、初代理事長には石村貞雄氏が就任され、校区の有志の方々と新しく理事を迎え、定員120名の社会福祉法人浄水会平尾保育園として認可を受けました。

●平尾保育園との出会い

平成5年石村一明氏が理事長に就任されました。この時、私は広島に住んでおりましたが自宅に石村先生より平尾保育園の園長に何回もお電話をいただき、2回保育園を見学させてもらい、お引き受けする自信がなく直接お会いしてお断りすべく、3月30日福岡に戻ったその足で、先生のご自宅に伺い、辞退申し上げ

たところ、4月1日が入園式、子どものためにと懇願され、お引き受けしたのが平尾保育園との出会いでした。

入園式当日に職員を紹介され、在園児82名という不安の中で式に臨んだことを思い出します。不安の中でしたがどうか保育運営ができたのは、それ以前に、昭和45年さわらび保育園の設立とともに、6年間で園長として務めた経験によるものと思ひ感謝の気持ちでいっぱいでした。平尾保育園を平成11年に退職、専門学校に非常勤講師として4年後、在職中の職員、浄水会の理事長より要請があり、断り切れず平成25年4月平尾保育園の園長に14年ぶりに再就任、前回一緒に頑張った信頼できる職員8名も在職中であること、それにベテランの主任も知り合いだった関係で、また私の目指している保育内容と変わらなかつたので前回のよう不安はなく、地域の皆様、保護者、理事の方々、職員の支えの中で微力ながら保育運営につとめ現在に至っています。

●保育園の建て替えについて

平成25年5月の園長会の折、老朽園舎の建て替え、待機児解消に関する補助金の話の聞き、さっそく理事会に諮ったところ全理事の賛成で、仮園舎の土地を探しました。適当な土地がなかなか見つからず、仕方なく狭い園地に仮園舎を建てるように話していたところ平成27年2月、市の教育委員会より平尾小学校校教育環境整備のため平尾保育園の移転の要請がありました。

保育園の移転先である建設場所については、園の必要面積、在園児等の利便性などを考え、九電記念体育館内の駐車場跡地に決定し、理事会でもこれを受諾し、近隣及び地域の皆様そして保護者より暖かいご理解をいただき、その後、順調に準備を進めてまいりました。



●新園舎建設にあたって

理事会、私たち職員は、新しく生まれ変わる保育園の大きな目的に自然の素材を使った木造園舎、昔は当たり前だった木の家も少なくなり、街の中で暮らす子ども達にとって木造ならではの優しい雰囲気や香り、温もりなど木の良さを感じる園舎を希望しました。

・子ども達が安心して生活できる保育室。
・自然の木々の中でのびのびと遊び、走り回れる園庭。実のなる木、四季を感じる樹木、0・1歳児が遊べる安全な中庭。
・食事は楽しくみんなと一緒に食べる、ランチルーム。調理室から子ども達に声がけができるように。
・3歳以上児も保護者の希望で主食を提供できる設備。
・絵本の読み聞かせに力を入れていることから絵本の部屋を。
・階段下には、みんなの隠れ家的な部屋を。

保育室、ランチルーム他の設備、備品など詳細にわたり週一回、理事長、私、主任、設計士、建設業者、と話し合いました。ようやく平成28年3月27日完成、引き渡しが終わりましたが予算の関係で、いろいろ削られた部分もありました。年長児の卒園式は、保護者の希望もあり旧園舎で行い、5歳児のみ給食は、新園舎のランチルームで食べることができ、いいなあと言いつつも楽しんで過ごしました。旧園舎での38年間、子ども達が生活してきた場所、子ども達の育ちを見守ってきた園舎との別れは、つらいものがありました。長年、旧園舎で過ごした主任はじめ先生たちの希望で、取り壊しの前に子ども達みんな旧園舎に集まり、園舎の窓に「あ、り、が、と、う」の文

字を書ききれいに飾りつけ園舎に向かい大きな声で一斉にありがとう、と感謝の言葉でお別れました。

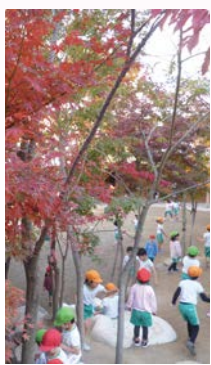
●新園舎での保育の始まり

平成28年4月1日には植樹した桜の花も咲き始め、木の香りのする新園舎で迎えた入園、進級式、定員を30名増やし150名となり、地域の待機児解消もあり178名でのスタートでした。

新園舎は県立福岡中央高校の正門前、近くに平尾小学校、平尾山荘公園、歴史に有名な野村望東尼の山荘、動植物園など、お散歩コースに恵まれています。園舎は木造ならではの優しい雰囲気や香り、部屋の中からは、いろんな緑が見られ四季のうつろいが感じられます。園庭には花や実がなり、サクランボ、どんぐり、栗、柿の実など、夏は、木陰で涼しく、秋は紅葉、冬は落葉して温かい日差しの中で過ごし、まるで街の中の森のようです。

職員、子ども達、保護者の「おはようございます」、の元気な挨拶から始まる一日。
お部屋では、静かにコーナー遊びに夢中になり、園庭に飛び出せば、石垣を登り降りして駆けまわっています。
園庭の小山に大きな石があり、石垣ありの園庭ですが、怪我もなく、子ども達の身のこなしは凄いですね。樹木もしっかり根付いてきたこの頃です。木登りや、遊び名人の子ども達の想像力から生まれる楽しい遊びをこれから沢山見つけたいです。

私たち職員一同、建物に負けないように更なる保育内容の充実、質の向上に努めようと頑張っています。そして地域の皆さんから、保護者から信頼される園、地域になくてはならない園として、これから80年100年と末永く続く園であって欲しいと、みんなで頑張ろうね、と話しています。



編集後記



機関紙の編集に携わり始め、あっという間に2年間が過ぎ、年を重ねるごとに1年間の短く感じるようになりました。そろそろ卒園のシーズンになります。が、もう卒園なのかと本当に時間の流れを速く感じます。

以前、ある方に「ワクワク・ドキドキすることがないから、1年を短く感じる。」と言われたことがあります。そう言われると確かに、今までに様々な経験をし、毎日、同じ事の繰り返しで、新しいことを経験したり、発見したりすることが少なくなりました。

ある脳科学者によると「発見が多いと時間の流れを遅く感じる」とのことでした。大人の時間はあっという間に過ぎるのに、子どもの時間はなかなか過ぎないように感じるの、子どもが大人より多く新しいことを発見するからなのかもしれないですね。

日々の生活の中で、少し生活習慣を見直してみると、ワクワク・ドキドキする機会や新しい発見をする機会が増えるかも。小さな一つ一つの積み重ねが、あっという間の1年をあっという間にしたと思える1年にしてくれたらいいな。

最後になりますが、お忙しい時期にも関わらず原稿依頼等、御協力頂き、ありがとうございました。次回からは新しい編集委員での発行となります。2年間、本当にありがとうございました。編集委員一同、心より感謝申し上げます。

(高山)